

2023年度内定者  
内定体験記

**林野庁**

## はじめに

本資料は、林野庁への入庁を希望する皆様へ参考にしていただくために、2023年度林野庁一般職大卒内定者（2024年度新規採用者）から、勉強方法や採用面接対策、志望理由等を聞き取り、取りまとめた「内定体験記」です。

体験記は内定者の中でも割合を多く占める試験区分「林学」を専攻した方、「林学」を独学で受験された方、そして、行政の方と3つに分類しました。

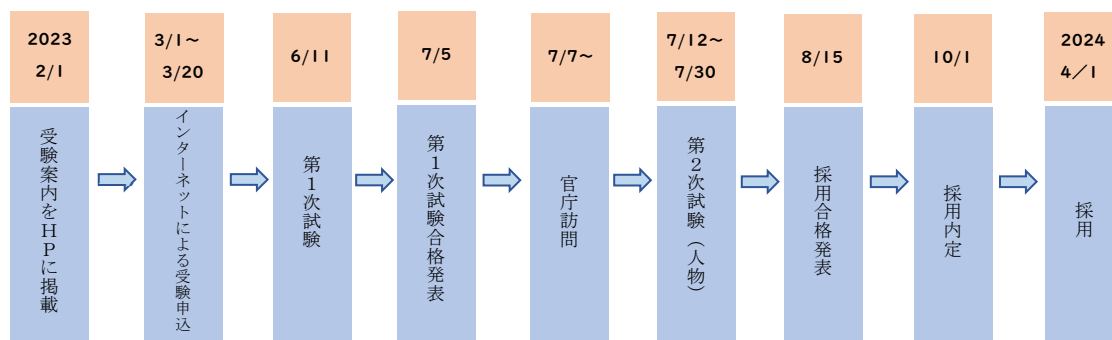
体験記からわかるように、林野庁の内定者は様々な分野の学問に励みながら、多様な志を抱きつつ、それぞれに適した方法で試験に臨んでいます。また、林野庁でも同様に、多様な人材を求めています。

試験・面接対策に正解はありません。対策に励む中で不安になった時、先輩たちが工夫を凝らしている姿や奮闘する姿を参考にいただければ幸いです。

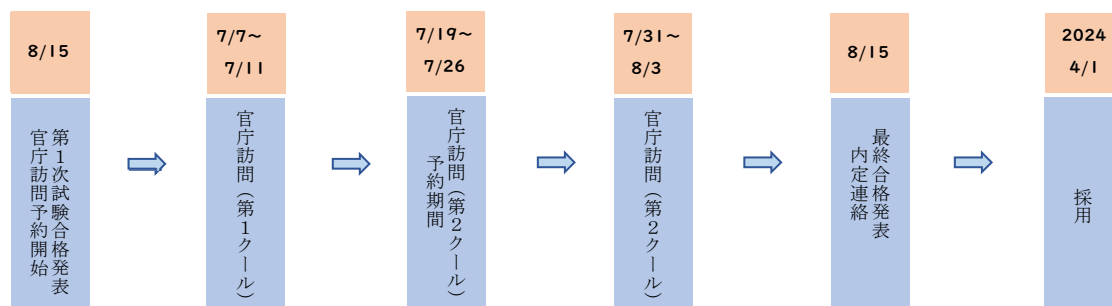
## 一般職試験（大卒程度）について

採用までに2つのプロセスがあります。1つ目は人事院が行う国家公務員試験で、2つ目は各府省庁で行う官庁訪問等の採用活動です。これらに通過することで晴れて国家公務員として採用されます。林野庁の官庁訪問は、職場の雰囲気を感じてもらうだけでなく、入庁するに当たっての疑問を解決する場としても設けており、その後に採用面接を行います。

2023年度試験日程（参考：「人事院国家公務員試験採用情報NAVI」より）



2023年度林野庁官庁訪問日程（参考）



学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	森林生態学	併願先	県庁(林業)

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	大学の公務員講座の講義とテキストに加え、直前期は時事問題対策の書籍を読みました。配点が高く苦手意識もあった数的処理は定期的に解き直していましたが、本番でも解けないと感じた箇所があり、すぐに飛ばして他の問題に時間を使うように意識していました。
専門試験・専門記述試験	試験で扱われる林学分野の問題集や解説書が無かったため、過去問を繰り返し解くことで対策をしていました。解けなかった問題は『森林・林業白書』や『森林・林業実務必携』を読んで、設問毎に自分で解説をまとめました。初めに取りかかった前年度の過去問は、解説をまとめるのには1ヶ月かかりましたが、3年分程度を終える頃にはあらかたの問題に対応できるようになりましたと思います。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	休憩時間では受験者同士や先輩職員とお話することができ、リラックスした状態で本面接に望みました。事前面接では実際の職務経験のお話を聞くことができ、また、本面接に対する助言を頂くなど、終始和やかで有意義な時間でした。
採用面接	提出した面接カードに沿った質問がなされ、それに対して回答していく形式で進みました。想像していたよりも優しい雰囲気のもとで話が弾み、面接でありながらも和やかな職場環境であることが感じられました。伝えたいことを簡潔に分かりやすく話すアウトプットの練習を積むと良いと思います。
面接カード(履歴書)の書き方	書く内容を裏付けるようなエピソードを思い起こし、深く問われた際にはその経験を交えて回答できるように、自己分析に時間を費やしました。勉強の気分転換にするつもりで、余裕を持って取りかかることをおすすめします。

林野庁に決めた理由	全国に跨がる国有林で学び、人と自然の間で活躍する人材になりたいと考え、林野庁を志望しました。また、自然と近い位置で働きたいと考えていた折、森林管理局のインターンシップに参加することができ、実際のフィールドに出向いて自然に触れる機会の多い森林官という職務の魅力や、朗らかな職場の雰囲気を肌で感じたことも大きな理由です。
-----------	--

後輩へのアドバイス	都合が合うのならば、インターンシップへの参加を強くおすすめします。説明やパンフレットでは伝わらない情報を得たり、自分がそこで働くイメージを具体的に捉えられたりする為です。これは長くて終わりの見えない試験対策のモチベーション維持に役立ちます。また、私はやや遠方からの受験で、交通手段に疎く土地勘も無かったため、試験地にたどり着くまでは常に緊張していました。説明会などで本庁に行く機会があれば、移動や宿泊などの予行演習を兼ねてみるのも良いと思います。
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	森林科学	併願先	林野庁(総合職)、県庁(林学職)

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	まずは過去問を入手し、出題科目と形式をつかむために前年度の問題を解きました。そして、自分が苦手とする科目、確実に解きたい科目などを探し、目標とする時間配分や得点を定め、それをもとに各科目の対策を始めました。過去問でスラスラ解けなかった判断・数的推理の問題は、YouTubeやインターネットで早く解くコツを調べることもありました。私は英語が苦手ですが、一日一問英文を解き続けていると、最終的には一番安定した得点源になりました。余裕があれば総合職の問題を解くのもいいかもしれません。
専門試験・専門記述試験	学部3年の後期から本格的に試験対策の勉強を始めました。もともと大学では林学に関することを学んでいたのですが、過去問を解いてわからなかった問題を中心にカテゴリー分けをし、必要な知識を一つのノートにまとめていく方式で勉強しました。森林・林業白書や森林・林業実務必携以外にも、政策について調べるには林野庁ホームページの分野別情報をよく利用しました。詳細かつタイムリーな内容が載っているのがオススメです！記述問題は、重要だと思うキーワードをいくつか挙げて、それをつなげて文章にする練習をしていました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	先輩職員の方々の雰囲気づくりが上手なので、待合室は緊張感がありながらも思ったよりはリラックスした感じで、他の受験者ともいろいろとお話できました。事前面談では、担当の方が少しぶっちゃけた話もしてくださったので、聞きたかった質問が聞けました。私は職員の方と1対1でしたが、人によっては職員2人と1対2の場合もあるようです。本庁は広くて迷いそうですが、案内や地図があるので大丈夫です。
採用面接	面接官は3人で15分程度、面接カードに沿った内容で、1人当たり大体2つ～3つずつ質問されました。内容によっては少し深堀されることもあります。たいへん想定される範囲で話が進みました。私は、質問内容に簡潔にわかりやすく答えられるよう、会話のキャッチボールを意識していました。面接は場慣れが必要なので、緊張感をもって練習できる機会をできるだけ多く作ると思います。
面接カード(履歴書)の書き方	一般職の面接カードはA4片面なので、そこまで書ける内容は多くありません。なので、面接本番での受け答えを想定し、自分の一番自信のある内容、深堀されてもしっかりと答えられる内容に絞りました。そして、面接カードが出来上がったら、教授やハローワークの人に見てもらい、添削を繰り返しました。内容について誰かに簡潔に説明できるかどうかを試してみてもいいかもしれません。

林野庁に決めた理由	私は、大学で生物多様性の保全や気候変動の緩和などの環境問題、森林・林業について学び、環境問題における森林の重要性を知りました。そして、卒業後は森林の利用・保全にかかわる仕事に就き、環境問題の解決に貢献したいと考えていました。林野庁では、国有林という広大なフィールドで、林業の支援から森林環境の保全まで幅広い業務があり、多方面から森林の利用・保全にかかわることから、林野庁を志望しました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	とにかく早め早めに準備を始めること、日程を把握して計画的に勉強すること、情報収集を欠かさず行うことが大切だと思います。特に、人事院・林野庁ホームページの試験や官庁訪問に関する情報は、こまめに隅々までチェックしましょう。また、専門試験の過去問の入手には長くて1か月程度かかるので、先輩などのつてがない方は早めに人事院に開示請求をしましょう。公務員試験はとても長い闘いになるので、体調に気を付けながら、自分の道を信じて、あきらめず最後まで頑張ってください！
-----------	--



学年	修士2年	試験区分	林学
専攻	森林生態学	併願先	県庁(林業)

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	判断推理と数的推理に時間をかけました。新スーパー過去問ゼミ6の基礎問題を中心に勉強しました。また、全分野に関しては国家一般職教養試験過去問500を使い、多くの問題に触れました。解説がついているのでお勧めです。苦手分野にも少しは触れるようにしました。本番に出ればラッキーです。時事ネタには最強の時事という本を使いました。解説動画がyoutubeにもあるので直前に見ておくことをお勧めします。いろいろと紹介しましたが、本屋に行き、自分に合うものを選ぶのが一番良いです。
専門試験・専門記述試験	過去問5年分を取り寄せ、森林・林業白書を中心に勉強しました。過去問1年分を解いたら、自分用の解説集をノートなどに作っていきました。森林・林業白書と森林・林業実務必携を用いました。それでもよくわからないことはネットで検索をしました。新しく学んだことは随時ノートに追加していきました。専門試験は5年分を完璧にできるくらいにやりこめば、本番は心配しなくて大丈夫です。専門記述試験は森林・林業白書の内容をある程度覚えてから、時間内に考えをまとめられるように練習しました。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	官庁訪問ではとても楽しくお話しすることができました。採用面接前に緊張をほぐす場であると考えて、楽しく会話をすれば良いと思います。このタイミングでいろいろと業務について聞くこともできました。面接カードの内容をしっかりと覚えておけば良いです。待合室では他の受験者と楽しく会話をしながら過ごすことができました。4~6人でまとまって待機しました。youtubeの動画を流していたりと部屋の雰囲気はとても明るいので、話しやすいと思います。
採用面接	採用面接の雰囲気は少し緊張感がありました。緊張しないために、面接練習はしっかりと行っておくべきです。最初に志望動機と携わりたい業務が聞かれたので、この2つは緊張していても、しっかりと話せるようになっておく必要があります。また、深堀りされることもあるので、練習時点で多くのアイデアを出せるようにしておく方が良いと思います。私は一人で練習したり、家族に協力してもらって練習していました。不安なことがあれば、キャリアセンター等で相談すると良いです。
面接カード(履歴書)の書き方	面接カードは結論から書くことと自分自身のエピソードを交えて書くことに気を付けました。より分かりやすく、そして興味を持っていただくために大切なことだと考えています。書いたことは全て聞かれるという思いで書くことで、面接での受け答えもしやすくなると思います。ただ、あまり細かく書きすぎると面接で話すことがなくなってしまいます。面接官の方は面接カードを読んで、面接前に自分の印象を持つことになるので、誤字などがないかしっかり確認しました。

林野庁に決めた理由	大学の授業で森林に興味を持ち、卒業研究では毎木調査を行いました。その際に、森林病害虫による森林の被害を目の当たりにし、森林保全に携わりたいと思うようになりました。就活当初は民間も考えていたのですが、より自分のやりたい仕事を考え、公務員を目指しました。県庁も合格したのですが、雰囲気や専門性を考えて、林野庁を選びました。林野庁には森林官という国有林の最前線で活躍している方がいます。私も森林官として働き、森林調査や森林施業を行いたいと考えました。
-----------	--

後輩へのアドバイス	公務員試験は結果が出るまでとても長いです。その間、やる気を損なわないように、ストレスの管理が大切だと思いました。私はよくyoutubeを見ていました。また、週1で山に行き、体を動かしていました。私は前年の秋ごろから少しずつ勉強を始めました。少しずつ進めることで負担が少なく、継続しやすいです。ただ、これより遅くても一次試験には間に合うと思います。むしろ、一次試験よりも面接カードの作成と面接練習に力を入れるべきだと思っています。採用面接で合格をもらうことが大切だからです。最後まであきらめずに頑張ることで結果がついてくると思います。
-----------	--

学年	既卒	試験区分	行政
専攻	社会学	併願先	国税専門官、裁判所事務官、県庁

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	7月から勉強を始めて、最終的に筆記の勉強にかけた時間は1200時間です。私は数的処理が得意だったので数的処理にはあまり時間をかけず、日本史世界史の知識は全くなかった。なのでそちらの勉強に時間をかけて取り組みました。YouTubeなどで流れをつかむのも良いですが、私は過去問をひたすら回して問題の傾向をつかんでいくやり方が向いていました。問題集の解説を読み込むのがおすすめです。
専門試験・専門記述試験	ミクロとマクロは苦手でしたが、なぜそうなるのかを理解するのは諦めて問題の出方と解き方だけを覚えるようにしたら、本番でも8~9割とれたのである程度割り切るのも必要かなと思いました。どの科目でもどんなに考えても分からない問題に悩まされることがあると思いますが、そういう問題は他の人も解けてないので大丈夫です。公務員試験は長丁場なのでメンタルを強く保つことが一番大事だと思います。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	案内してくださった職員の方も面接官の方も優しく和やかな雰囲気、ここで働きたいという思いが強くなりました。ネット上には「公務員の面接は落とす人にはお客様対応で優しい」「エレオク」など様々な都市伝説がありますが、優しい対応を受けても内定が出たのでネットの情報に惑わされずに自分を信じてください。
採用面接	面接カードに書いていない事柄については聞かれませんでした。あくまで私の場合なので聞かれる人もいないかもしれませんが、最低限自分が書いたことの説明がしっかりできるようにしておけば十分だと思います。万が一想定外の質問に意表を突かれたとしても、それまでの対策で自己分析を行って自分と向き合っていれば答えられると思います。
面接カード(履歴書)の書き方	エクセルで提出でした。手書きよりも誤字やミスに気づきにくいので何回か確認すると良いと思います。ガクチカを書く欄がありますが、自分では頑張ったと認識していなくても他人からは評価されていた、というようなこともあるので、自己分析だけでなく他己分析も行うとアピールできるが増えるかもしれません。

林野庁に決めた理由	元々自然や動物に関わる仕事がしたいと思っていたのですが、文系の大学に進学したので諦めていました。国家公務員を目指すことに決めて、合同説明会に参加したときに森林管理局の存在を知り、国家公務員でありながら現場に出られること、行政区分で入庁しても林学区分の人たちと同じ仕事ができることを聞いてここだ!!!と思いました。
-----------	--

後輩へのアドバイス	公務員試験は勉強する期間が長いので体調には気を付けてください。精神的に不安な時期は長時間勉強しても頭に入ってこないし、逆に調子が良いときは今まで解けなかった問題が急に解けるようになることもあります。おいしいものを食べたり、SNSを見たり、時には離れたりして自分のペースで頑張ってください。応援しています。
-----------	--

学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	環境科学	併願先	環境省、県庁(林業)、民間企業

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	数的推理、判断推理からはじめ、参考書を3週ほど解きました。何度も同じ問題を解いていると、だんだんとコツをつかむことができました。数学と文章理解は試験まで継続して解くようにしました。一人で勉強していると、本当に合格できるのか、この勉強方法で良いのか不安になることもあったため、予備校の模擬試験を受けるようにしていました。ライバルの学力レベルが分かり、自分の勉強方法を見直すきっかけにもなりました。
専門試験・専門記述試験	大学で林学を専門としていなかったため、勉強を始めた当初は分からないことだらけでした。まずは、過去問を1年分解き、問題の一つ一つの選択肢に対して、どこが違うのか森林・林業白書や林業用語辞書で調べるようにしました。ノートに知識をまとめたり、絵や図を貼り、時間があるときに見直すようにして覚えました。記述試験は、論理的に書けるように大学のキャリアアドバイザーに添削をしてもらっていました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	職員の方とお話することができ、林野庁の雰囲気を感ずることができ、入庁後の働くイメージをすることができました。私は待ち時間が長く、その間に集中力を切らさないようにするのが大変でした。待ち時間に、同じ受験者の人と話することで、緊張をほぐしました。リラックスできるように自分なりの緊張のほぐし方を持っておくと思いま
採用面接	面接カードの深掘りをされました。緊張しましたが、笑顔を忘れずに、できるだけ自然体でありのままの自分を伝えることを意識しました。対策は、複数回練習を行う中で、自然体で話せるように何度も練習を行いました。民間企業の面接を経験していたことで、自己分析を深めることができ、本番では自信を持って話すことができました。
面接カード(履歴書)の書き方	今までの経験を、短い言葉で書くようにしました。全体的なストーリーを意識し、面接で話しやすいように作成しました。大学時代の活動でどう感じたのかや、どのような学びがあったかを具体的に書きました。また、入庁後に自分の強みをどう生かすことができるのかも具体的に書くようにしました。

林野庁に決めた理由	自然と関わる仕事に就きたいと考え様々な業界を見ていたところ、林野庁のインターンシップに参加し、日本の林業の活性化に携わりたい思いから林野庁に決めました。インターンシップのときに、森林のことを楽しそうに優しく教えて下さる職員の方々と一緒に働きたいと感じました。林野庁は、現場を見て直接自然を管理してやりがいを感じながら仕事をする事ができると考えました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	一人で不安な時がたくさんあると思いますが、そんなときは、信頼できる人に相談してみてください。一番大切なのは、どんなに過去問で点数が取れなくても、問題が解けなくても、自分は絶対に合格する！という気持ちだと思います。その思いをもつことで、自分の思ってもいない力が発揮できたり、目標に向けて頑張る活力になるとと思います。体調を大事にして、焦らず一歩一歩頑張ってください！
-----------	--

学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	森林科学	併願先	県庁、森林総合研究所事務

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	基礎教養試験は出題範囲が幅広く時間も限られているため、一度過去問題を解いて自分の得意分野に時間を配分できるよう時間配分を決めた。私は社会科学・人文科学が苦手だったため、時事問題(速攻の時事で勉強)以外はその範囲の勉強はせず、他の分野に力を入れて勉強した。数的処理は大学の公務員講座で配布された問題集を3周し、ミスがなくなるまで解き直し続け、数的処理でケアレスミスをする事の無いように徹底した。文章理解は模試を解き、解説を読むことで出題形式に慣れていった。
専門試験・専門記述試験	専門試験では過去問題を解き、森林・林業白書、森林・林業実務必携を使ってまとめノートを作成し勉強した。私は森林・林業白書の特集のみを最初に読み、過去問題を解いた。過去問題の間違いを探し、森林・林業白書に記載がある場合は森林・林業白書にマーカーで線を引き、ノートの上部に問題・下部に正しい答えをまとめたノートの作成を過去3年分行った。その後、マーカーを引いた部分を中心に森林・林業白書を一通り読み、まとめノートにより詳しい説明を付け足した。作成したまとめノートを読み込み受験に臨んだ。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	林野庁の官庁訪問は、林野庁に勤めている方2人と個別で質問やお話を聞く事ができる機会だった。私は併願先と林野庁で就職先を悩んでいたため、直接お話を伺うことのできる貴重な機会となった。質問する内容は予め決めておくと良い。官庁訪問後、事前面談・採用面接の順番が来るまでは待合室で受験者同士で自由に話すことができたため、その中で気分を和らげることができた。
採用面接	採用面接はとても短いため、短い文章での自分の魅力の伝え方・なぜ林野庁に就職したいのかを事前に考えておくと良い。私は緊張しやすい性格のため、大学の公務員講座の面接練習を通して会話の受け答えに慣れていき、笑顔と深呼吸をすることを忘れずに面接に臨んだ。予め想定した質問への回答はキーワードのみを念頭に置き、面接当日は質問されたことを理解した上で自分の言葉で回答ができるように意識した。
面接カード(履歴書)の書き方	簡潔な文章かつ、読み手に就職への熱意や自分の魅力が伝わるよう意識して書いた。私は話したいことが増えて一文が長くなってしまいう傾向があったため、研究室の教授・面接練習の先生・家族に実際に読んでもらったうえでアドバイスをもらい、修正を重ねた。

林野庁に決めた理由	公務員の中でも様々な林業関係の職種がある中で林野庁を志望した理由は、林学を勉強している中で様々な経験を積んだうえで日本の林業に貢献したいと考えたから。私は1年前までは全国転勤に不安があり、そのため都道府県庁を第一志望としていた。しかし、専門試験の勉強をしている中で、2・3年おきに全国転勤がある林野庁では、座学だけでは学べない国としての問題に直接向き合うことができるのではないかと思います、様々な併願先がある中で林野庁に就職を決めた。
-----------	---

後輩へのアドバイス	公務員勉強をしている中で、どの庁を第一志望にするかを悩んでいる方もいるかと思いますが、私のように公務員勉強の中で自分のしたいことが明確になっていくこともあるかと思うので、のちに自分が勤めたい就職先を選択することができるように、悔いの無いよう一次試験に向けて勉強してもらえたらと思います！
-----------	---



学年	既卒	試験区分	林学
専攻	森林科学	併願先	なし

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	2回目の公務員試験だったので前回使用した大学での公務員講座の教材を使用して勉強しました。数的処理などより英文、文章理解の方が苦手意識があったので毎日触るようにし、数的は一通りの復習が終われば、出やすい問題を毎日数問取り組むようにしました。教養や地歴は範囲が広いので特に対策はしませんでした。動画配信サイトにある歴史解説を隙間時間に見るだけでも効果はあると思います。
専門試験・専門記述試験	森林・林業白書、森林・林業実務必携の2冊が重要になってきます。森林・林業白書は林野庁HPにあり、森林・林業実務必携も図書館にあるかと思えますので借りて使用していました。勉強法としては過去5年間分の林学専門試験を開示請求で取り寄せ、本番通りの時間制限で解き、その後、全ての設問の選択肢の検討を行います。なぜ正解しているかよりもなぜ間違っているのかを理解する方が頭に入りやすいためこのようにしていました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	9:00頃に集合、参加者全体への説明が終わり次第、管理課の職員さんと面談、その後、管理課採用担当者さんと面談したすぐ後に採用面接という流れで、自分は早く終わった方で14:30頃には退庁していました。どの職員さんも穏やかに話していただいたため自分も用意していた話を落ち着いてすることができました。注意点としては少し館内で迷いやすいかもしれないため時間には余裕をもって行くことをおすすめします。
採用面接	自分1人に対して面接官3人、書記1人で行われました。各面接官が1人ずつ面接カードに沿った内容の質問をされます。そのため、面接カードについては誰よりも詳しく話せるように準備することが大事だと思います。注意点というほどではないですが自分が面接をしていた当日は声の音量に意識を割けませんでした。相手にしっかり伝わるように声は大きくする意識を持った方がいいと思います。
面接カード(履歴書)の書き方	志望理由と取り組みたい業務には一貫性を持たせた方が説得力がでると思います。自分の場合は森林を守り支えていきたいという理由から林野庁を選択し、林野庁において路網整備を行いたいと答えました。これは路網整備によって森林の整備が容易になり森林を守っていくことにつながるという一貫性を持ちます。そのため、志望理由と取り組みたい業務については自分なりにしっかり考える方がよいと思います。

林野庁に決めた理由	森林を守り育てていくための仕事をするうえで林野庁が最も多くの面から貢献できると考えたからです。市や県においても森林を守るための仕事はできますが林野庁であれば国だけでなく私有林なども含んだより広い範囲の森林にかかわることができます。また、森林に直接かかわることだけでなく、木材の新たな活用法や森林教育など森林に関する様々なことにかかわることができます。そういったところに魅力を感じたため林野庁を選択しました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	国家公務員は民間などでの就職活動よりも結果が出るのが遅いため、周りが決まっていくなか自分だけおいて行かれていよう焦りや息苦しさを感じると思います。しかし、それでも諦めずに地道に努力すれば必ず結果はついてくると思います。自分のように一度躓いたぐらいでは何も問題ないため自暴自棄になつたりせずコツコツと積み重ねることが大事だと思います。体調管理を第一に頑張ってください！
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	行政
専攻	日本近現代史	併願先	地方整備局、財務専門官、県庁など

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	大学生協の講座と古本の過去問集で勉強しました。数的処理はあまり得意ではなかったため、分野ごとに大枠で解法を把握し、応用を解いていきました。文章理解や資料解釈は得意だったため、ほとんど対策せず、人文社会や自然科学は、一般知識や大学受験時の知識で解けたため、講座と問題演習で軽く対策しました。基礎能力試験は選択と集中が大事だと思います。
専門試験・専門記述試験	大学生協講座の問題集を5～6周して、民・行政・憲の基礎を反復して細かく覚えしました。財政学・行政学・政治学・経済学は問題集3～4周で、大体解けるよう対策しました。民法が苦手で、覚えるまで動画サイトの解説も見ながら反復しました。得意だったのは経済学で、最初は分からなくても解法のテンプレートを修得するのがコツだと思います。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	官庁訪問の雰囲気は、非常に穏やかな口調の職員3人の方が相手だったため、全く緊張せず臨むことができました。官庁合同説明会やOPENゼミに参加していたため、何人かの人事担当職員の顔を知っていたので、そこも緊張しなかった要因だと思います。自分らしさを失わないようにすることが一番大事だと感じました。まず業務説明があり、その後若手職員2名と雑談し、面接に移りました。
採用面接	面接官は3名で、面接カードに沿って聞かれました。配属先によっては転勤が発生すること、趣味や学問について聞かれたことが印象的です。20から30分ほどの面接が終わると各自帰宅でした。穏やかな雰囲気、今までの様々な面接の中で最も話しやすかったです。
面接カード(履歴書)の書き方	森林整備ボランティアの経験や今までの活動から、「行政系である自分がなぜ森林管理局を志望するのか」を伝えるよう意識しました。また、職場訪問に参加していたため、そのことを書いたことも良かったのだと思います。ハローワークの職員に添削してもらい、より良い面接カードを作ろうとしたことが功を奏したと考えます。

林野庁に決めた理由	昔から森林や生き物が好きで、将来へ守りたいと考えたのが一番です。また、文系でありながら現場に向いて業務に当たれる点で魅力的に感じました。2023年3月の官庁合同説明会で森林管理局の存在を知り、森林整備に興味を持ったことで国有林を整備するNPO団体のボランティアに参加しました。そこで参加者と交流する中で自分が働く意義を実感しました。また、近くの森林管理署で職場訪問を対面で開いており、そこに参加して事業や職場の雰囲気を知ることができたのが、志望の決め手になりました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	様々なアクションを起こして自分が本当にやりたいことかどうかを検証する姿勢が大事だと考えます。私は森林管理局を知ったのが2023年3月と遅い方だと思いますが、国有林整備ボランティアや職場訪問などを通じて自分のやりたいことを確定する取り組みが良かったと思います。ホームページを随時確認して自分の成長の機会を逃さないことが公務員試験全体に通じるアドバイスです。
-----------	---

学年	修士1年	試験区分	林学
専攻	植物生理学	併願先	県庁

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	始めに配点割合が高い数的処理と文章理解を重点的に取り組みました。使用した教材は国家一般職大卒程度の過去問15年分を繰り返し解きました。数的処理は個人的に判断推理が難しく時間がかかるため、資料解釈と数的推理で速く解答できるような解法を学び、判断推理に時間をかけられるような工夫をしました。知識分野は得点配分の割に学習する範囲が膨大にあるため、[生物・化学・地理・思想・時事]と科目数を絞って対策を行いました。
専門試験・専門記述試験	森林・林業白書、森林・林業実務必携、国家一般職大卒の林学過去問5年分を使用して対策しました。専門択一は過去問5年分すべての選択肢(計1000問)に対して森林・林業白書、森林・林業実務必携、インターネット等を利用して自分なりの解説を写した過去問専用ノートを作成し、本番までこのノートを何度も繰り返し復習しました。専門記述は森林・林業白書で挙げられている現状の日本林業が抱える課題に対して自分の言葉で記述できるように対策を行いました。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	私は初日の午前中に官庁訪問を行いました。待合室には30人ほどの受験生がいたと思います。一つのテーブルにつき6人ほど受験者が座り、私が座ったテーブルではお互いに自己紹介や大学で学んでいることや林野庁で行ってみたい業務等について話し合いました。話していくうちに、この人たちと働けたら楽しいだろうなど思いながら自分の面接の番までリラックスして待機することができました。またテーブルにはたくさんのお菓子や飲み物も用意されており、和やかな空間でした。
採用面接	採用面接は1(受験者)対3(面接官)で行われました。質問のほとんどが質問カードに沿った内容でした。対策として、私はあらかじめ質問カードから予想される質問を自分で想定し、面接を想定した模擬面接を3回程行い本番に臨みました。本番では基本的な入退室動作はもちろん、相手の目を見て、明るく話すこと心がけました。面接官の方も終始笑顔で相槌をしてくださり、リラックスして受け答えすることができました。面接時間は15~20分でしたが、あっという間に終わったという印象です。
面接カード(履歴書)の書き方	私はExcelで面接カードを記入しました。すべての項目に対して簡単に端的にまとめ、読んですぐにどんなことをしていたかわかるような文章を作成しました。また注意点として、記述内容は誇張はせずにこれまで自分が取り組んできたことを正直に書いた方がいいと思います。理由としては、自分の体験談であれば仮に予想外の質問をされた時にも柔軟に受け答えができると思うからです。

林野庁に決めた理由	私は幼い頃から父親と一緒に山や川で遊ぶ体験を多く経験し、自然が大好きになりました。将来はこの自然あふれる環境で働き、この美しい日本の山林を後世に残す仕事に就きたいと思い林野庁を志望しました。また県庁の林学職も検討しましたが、林野庁の魅力として、転勤ごとに多くの土地の森林の様相を観察し、保全に関われることで常に新しい発見と気持ちを持って業務に取り組める点や、実際に国有林の森林所有者という立場で森林の管理に携われることに魅力を感じたからです。
-----------	---

後輩へのアドバイス	公務員試験を受験する上で、民間企業との併願を希望される方、学業の研究等と並行して対策される方、また再就職される方、様々な状況の方が受験されると思います。私も昨年は卒業研究との両立を図りながらの公務員試験対策を行っていました。その中で、私が今回の公務員試験を続ける上で一番大切だと感じたことは、今の自分が合格・内定するまでにやるべきことを逆算して考え、1日1日やるべきことを継続してやり遂げることだと思います。
-----------	--

学年	学士4年	試験区分	行政
専攻	行政法	併願先	国税局・県庁

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	数的処理は強い苦手意識をもっていたので、その中でも自分が得意だと感じる分野を見つけてその分野を重点的に学習しました。一方で数的処理で落とした得点を得意科目であった文章理解や日本史で確実に得点することでカバーができるようにしていました。理系科目はそもそも学習したことがない分野からの出題もあるので、過去の出題傾向などを調べてある程度山を張っていました。
専門試験・専門記述試験	法学部に在籍していましたが分野によって得手不得手もあったので、基礎能力試験と同様に得意な憲法・行政法で確実に得点できるよう心掛けていました。経済原論は1月くらいまで食わず嫌いしていましたが、実際は原理だけでなく計算問題も公式を暗記することで答えを求めることができるので、問題集の周回もしやすく試験直前期には得点源にすることができました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	集合は午前9時でした。まず前日の業務説明会の補足などがありました。それまでインターンシップや前日に行われた合同説明会以外の説明会に参加したことがなかったので不安でしたが、職員の方が親切に説明してくださったため改めて業務内容への理解を深めることができました。その後面接が行われ、面接の順番は申し込み順で私は3番目でしたが昼の12時前後にはすべて終了したので3時間程度の訪問でした。
採用面接	面接は三人の試験官の方から順次面接カードに沿った質問を受けるという形式でした。志望動機から趣味まで面接カードの内容のほぼ全てから質問されました。素直に受け答えすることが大事だと考えていたので、質問されたことに正直に答えるように心がけていました。他の志望先との志望度なども素直に迷っていることを伝えさせていただきましたが、就職は人生を決める重大な選択で迷うのは当たり前なのでじっくり考えて下さいと温かいお言葉をいただきました。
面接カード(履歴書)の書き方	基本的に質問カードに沿った面接をしてくださるので、ある程度の想定問答を考えていたためはきはきしゃべることができたと思います。一方で想定していない質問をいただくこともあったため、当たり前のことですが虚偽の内容やエピソードを大げさに盛ることなく素直に面接カードを記入することが重要だと思います。自己分析は自分では気づかない点も多いため、友人に長所短所を聞くことで客観的な視点も取り入れることができました。

林野庁に決めた理由	高校時代に山岳部に所属していたため、山林の問題や魅力をわずかながら理解していました。この経験から、現在山林が抱える問題を解決し今後より多くの国民の方に山林の魅力を伝えていきたいと思ったことが志望動機でした。その中で林野庁や森林管理局では行政職・技術職の受験区分に関係なく現場に出て仕事ができるという点に魅力を感じ決定しました。また現役の職員の方からのワークライフバランスが取れているといった説明も決定に際して大きな要因になりました。
-----------	--

後輩へのアドバイス	公務員試験は勉強期間も長く大変ですが、その分内定をいただけた時の喜びや達成感はとても大きいものです。長期戦になるため自分に合った勉強法を見つけることも大事だと思います。私のようにコツコツやるのが苦手な人は、やる気のある時に一気にやるのもアリだと思います。ただどれだけやる気がなくても10問、20問くらいは何らかの問題を解いてから寝るのがおすすめです。眠る時に何もせず寝る時に比べて自分に対して罪悪感をあまり感じずに寝ることができ、良質な睡眠をとることができるので体調管理の観点からもおすすめです！無理せず自分のペースで頑張ってください！
-----------	--



学年	既卒	試験区分	林学
専攻	動物生態学	併願先	環境省

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	数的推理を中心に、過去問を用いて独学で勉強しました。試験までの準備期間が3ヶ月と短かったため、間違えた問題の復習を中心に行いました。試験本番では、最も時間を要する数的推理から解き始め、最後に知識問題を解きました。しかし、時間配分がうまくできず、試験時間ギリギリで解答を終えました。時間を計測しながら、本番を想定した問題演習を重ねるべきだったと反省しました。
専門試験・専門記述試験	森林・林業白書と森林・林業実務必携を用い、過去問を繰り返し解きました。大学の専攻と全く異なる分野であったため、森林・林業白書や森林・林業実務必携を読み込み、知識を体系的に理解するように努めました。森林・林業白書には、我が国の森林・林業の現状や施策について詳しく記述されています。キーセンテンス等にマークし、林業の重要課題について、自分なりの言葉で説明できるようになることを目指しました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	事前面談や待合室は非常に温かい雰囲気で、リラックスして採用面接に臨むことができました。面談では、先輩職員の方に、志望理由、自分の得意分野や興味関心等を素直に伝えました。それに対して、丁寧にアドバイスしてくださり、林野庁職員としての自分の将来像を明確にすることができました。予備知識になかった職務や働き方についてのお話を伺うことができ、より林野庁への志望度が高まりました。
採用面接	面接補佐の方と事前に雑談し、緊張を解いて望むことができました。表情が固いという指摘をいただいたため、口角を上げて、明るく爽やかな態度を意識して面接に臨みました。面接官はお三方とも穏やかで、笑顔も時折見せてくださり、和やかな雰囲気でした。ほぼ面接カードの内容に沿って質問されました。言葉に詰まらないように、簡潔に答えることを意識しました。
面接カード(履歴書)の書き方	面接カードは、質問を誘導するために抽象的に書きました。準備不足のため、志望理由など、自分の中でしっかりと固まっていない項目がいくつかありました。面接本番では、事前面談で先輩職員の話聞く中で得たキーワード、フレーズ等を肉付けして話しました。

林野庁に決めた理由	登山やバードウォッチングが趣味で、幼いころから自然が大好きでした。熊本地震後に阿蘇山に登った際、土砂崩れや地割れなど、山林の被害を目の当たりにしました。この経験から、国民の豊かで安全な暮らしを支えるために、森林を守りたいという思いを強く抱き、林野庁職員を志望しました。複数省庁を官庁訪問する中で、最終的な決め手となったのは人です。林野庁職員の方々の和やかで実直な雰囲気が自分に合っていると感じ、入庁を決意しました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	インターンシップや説明会に全く参加していなかったため、採用面接は正直不安でした。しかし、面接当日の官庁訪問で、先輩職員にお話を伺うなかで、仕事のやりがい、自分にあった雰囲気を感じ、林野庁への志望度が高まりました。面接に自信をもって臨むためにも、これから林野庁職員を志望する方には、事前に説明会等に参加し、志望動機を固めておくことをお勧めします。
-----------	--

学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	植物生態学	併願先	県庁(林業職)、環境省

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	3年生の夏から公務員講座を受講していたので、教養科目はそこで配布されたテキストやプリントを用いて勉強しました。範囲が広がったので、点数の配分が多く自分が苦手とする数的処理と時事を中心に取り組みました。特に数的処理は苦手だったため、問題に慣れるために反復練習を行いました。時事は「速攻の時事」を試験の3カ月前から朝起きた時と寝る前に読みました。また、公務員講座では模試が数回行われたので、その時の間違えた箇所のやり直しも行いました。
専門試験・専門記述試験	基本的に森林・林業白書、森林・林業実務必携、直近5年分の過去問を用いて勉強しました。プリントアウトした過去問を解き、1問ずつ切り取りノートに貼り付け、その下に上記の本を使用して解説を書き込みました。大学で林学関係の講義を受講していたため、その時に使用した資料も見直しながら勉強しました。過去問は人事院に資料請求をしてから届くまでに1カ月程時間がかかるので、なるべく早く手続きをすることを勧めます。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	私は8月の第2日程に参加し、事前面談と採用面接合わせて約4時間かかりました。事前面談は、午前中と採用面接の直前の計2回行われました。両方とも1対1で20~30分程行われ、午前中の面談では入庁する際に気になること等の質問をしました。採用面接直前の面談では、面接カードで聞かれそうなところや入室の仕方などのお話をしました。待ち時間に職員の方や他の受験生の方と話したことで、緊張も自然とほぐれていきました。
採用面接	採用面接は1対3で約15分でした。質問内容は志望動機や携わりたい業務、配属先についての質問など、基本的に面接カードに沿って行われました。私はインターンシップに参加したことを書いていた為、インターンシップ先になぜその森林管理局を選んだのかについても聞かれました。採用面接直前に行われた面談でリラックスしていたのもあり、笑顔で相手の目を見ながら自分の言葉で林野庁に対する思いを伝えることができたと思います。
面接カード(履歴書)の書き方	文字数を多く書き込むことができ、修正に融通が利くExcelで行いました。結論・理由・背景の順番で分かりやすく簡潔に書くことを意識しました。自分一人では気づかない部分もあるため、キャリアセンターの方に複数回添削をしてもらい、その都度修正をしました。配属希望先の森林管理局を第3志望まで書く為、どこで働きたいかとその理由を予め考えておくといいかもしれません。

林野庁に決めた理由	幼い頃から自然や森林が大好きで、将来はこれらに携わる職業に就きたいと考えていました。大学での講義やフィールドワークを経て現在の森林が抱える課題について学び、課題解決に貢献したいと思い、調べていた時に林野庁の存在を知りました。オンラインでの業務説明会を通してもっと林野庁のことを知りたいと思い、インターンシップに参加しました。目的意識を持って業務に取り組む職員の方々の姿、木材普及や森林保全などの業務内容に惹かれたことに加え、全国に出先機関を所管する林野庁で働くことで自身の成長に繋げることができるのではと思い、林野庁に決めました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	公務員試験は民間企業の就職活動と比べて時期が遅いため、焦りが出てくると共に試験を受ける機会が限られているのでプレッシャーも大きく、精神的にしんどい時間が長く続くと思います。そのような時は、友人や家族に悩みや不安などを相談したり、時には遊んだり何もしない時間を作って息抜きをして下さい。大事なことは「最後まで諦めずに取り組むこと」だと思うので、疲れたと思ったら途中で休みましょう。諦めずに努力した人には結果が出る時が必ず来るので、焦らずに自分のペースで進んでください。
-----------	---

学年	既卒	試験区分	林学
専攻	生態学	併願先	環境省

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	基礎能力試験はまず過去問を解いてみて、できたところできなかつたところを洗い出しました。自分は数的推理・判断推理が苦手だったので、そこを重点的に勉強しましたがいまいち結果は出なかったように思えます。代わりに文章理解と知識分野で得点を稼ぎました。特に知識分野は分からなかった問題が運よくめぐれで当たったこともあり満点をとることができました。総合点で合格ラインを突破できればいいので、苦手分野があっても他の得意分野で稼げればいいと思います。
専門試験・専門記述試験	専門試験はとにかく過去問を解くに尽きます。過去問を取り寄せて、まず解いてみてわからなかったところを、森林・林業実務必携や森林・林業白書で調べてノートにまとめていきました。それでもわからない問題はありますが専門試験は満点を取る必要はないので、そこは取捨選択すればいいと思います。また記述試験は解答用紙が手に入らなかったこともあり対策ができませんでした。ささやかな対策ですがメール書く際など、日常からわかりやすい文章を書くことを心掛けることが大切だと思います。記述試験の際に自分がした工夫は「以下に～について記述する」と明記し、段落分けして書いたことです。試験官に何をこれから書くのかはっきりと伝え、問題提起から解決策まで話の流れが分かるようにきちんと伝えることを心掛けるといいと思います。また文章は一文を簡潔に書くことが大切だとも思っています。もともと記述問題は得意だったこともあり自分でも驚いたのですが満点をいただくことができました

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	官庁訪問は緊張していきましたが、待合室はとても和やかな雰囲気でした。受験生同士がおしゃべりできるように机が配置されており、他の受験生とおしゃべりして緊張を和らげることができました。事前面談もとても優しく接していただき、心配することはないと思います。こちらもおしゃべりといった雰囲気です素の自分で話すことができました。
採用面接	面接官が三人いる面接でした。面接官は優しい雰囲気です質問してくださいました。圧迫面接なんてことはありません。面接カードに書いてあることにそって質問されるので割と答えやすい質問が来ます。答えに詰まるようないじわるな質問はありませんでした。印象に残っているのは「林業の勉強をしてきて印象に残ったことはありますか？」と聞かれたことです。こちらも林業の勉強をしていたのでスムーズに答えられました。
面接カード(履歴書)の書き方	面接カードは面接官との会話のきっかけを作る大切なカードです。きっちり時間をかけて書きましょう。いわゆるガクチカも、バイトリーダーをしていたとかサークルで幹部をやっていたとかでなくても構わないと思います。自分は旅行が好きだったのでそのことについて書きました。ありのままの自分を面接でいかに表現できるかのきっかけを作るカードなので、嘘は書かない方がいいと思います。

林野庁に決めた理由	小さいころから自然が好きでなにか自然にかかわる仕事に就きたいと思って林野庁を志望しました。特に林野庁の仕事で魅力的に感じているのは世界自然遺産の管理なども行っているからです。西表島に遊びに行ったときに登山道に林野庁の林業テープ(目印用のテープ)があり、こんなところでもできる仕事があるんだ!と思ったのも自分の志望理由の一つでもあります。
-----------	--

後輩へのアドバイス	受験勉強中はとにかく不安でいっぱいだと思います。ちゃんと受かるのか?来年自分に居場所はあるのか?考え出したらきりが無いと思います。そんな時自分は過去問を解いて自分の立ち位置を確認していました。またインターネットなどを利用して実際の合格ラインがどれくらいか確認することも大切です。自分はそのラインと自分の勉強の進捗を比べて安心材料にしていました。筆記試験は満点を取る必要はないので、あまり思いつめず楽な気持ちで勉強をコツコツしていただければいいかなと思います。
-----------	---

学年	修士2年	試験区分	林学
専攻	システム生命科学 生命理学 数理生物学	併願先	植物防疫所、環境省自然系

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	まずは、正確に解答できないことを承知の上で数年分の過去問を一通り目を通しました。基礎的な読解力、英語の長文、数学、物理、化学、世界史、公民の問題の内、英語、数学の問題が多いため、高校生のころ使用していた英語の単語帳、数1 A～2 Bのノートの内容を復習しました。同時に、全ての科目をカバーすることはできないことを念頭に置き解答できそうな科目を重点的に勉強しました。
専門試験・専門記述試験	私は林学は初めて学ぶ分野であったため、基礎能力試験より専門試験を重点的に勉強しました。まず、「森林・林業実務必須」と「森林・林業白書」を一通り読みました。その後、過去問の内容と「森林・林業実務必須」および「森林・林業白書」の内容を照らし合わせ、どういった内容の問題が出題されやすいのか参考書のどの項目が重要かを念頭に置き、「森林・林業実務必須」と「森林・林業白書」の内容を復習しました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	事前面談は採用面接の前に林野庁での業務について質問できる最後の機会です。林野庁、併願先の植物防疫所、環境省自然系での業務に関する質問をそれぞれ5～6個ほど用意しました。林野庁での官庁訪問では、事前面談以外に採用面接の前に他の志願者の方、林野庁の職員の方と交流する場がありました。情報を集めるだけでなく緊張をほぐすことができました。
採用面接	面接は1対3の形式で行われました。最初に志望動機が聞かれました。志望動機を面接カードを見ずに伝えられるように練習しましょう。私は大学院で1年休学し1年留年した経緯があります。留年した経緯がある方は、留年した理由、自身の問題点をどのように解決する努力をしているかを簡潔に述べるのが重要となります。自由記載、趣味、これまで力を入れて取り組んだことに対して聞かれました。しっかりとした個性を出しましょう。
面接カード(履歴書)の書き方	二次試験の面接、官庁訪問ともに面接カードの内容を中心に行われました。2021年度の国家公務員試験の二次試験の面接カードは自筆で、2023年度の官庁訪問の面接カードはエクセルで記入しました。自分にしかない「林野庁での業務で何に貢献したいのか」という志望動機を記入しました。くれぐれもマイナスな印象を持たせてしまうことは記入しないようにしましょう。

林野庁に決めた理由	私は物心ついたころから昆虫などの野生動物が関わる自然環境に関心があります。特に西日本には東日本では見られない昆虫が生息し、他の地域にはない生物多様性があると言えます。こうした素晴らしい自然の維持に貢献したいと思い、森林に関わる業務を行う公務員を目指しました。また、土砂などの流出からの防備、騒音の低減、景観の維持など森林が人の生活にもたらす恩恵も無視できないと思ったため林野庁を志望しました。
-----------	--

後輩へのアドバイス	留年や休学といった空白の期間がある方でも、しっかりとした志望動機があり、質問に対する受け答えができれば面接官の方に悪い印象を与えることはありません。あきらめずに取り組みましょう。筆記試験の勉強は一人で行うものですが、面接カードおよび面接の対策は、一人で解決しようと思わずに公務員として勤務している大学の先輩、大学の就活相談室の方に相談しましょう。客観的な視点が大切です。ここまで、ご覧いただきありがとうございました。
-----------	--



学年	既卒	試験区分	林学
専攻	土壌圏科学	併願先	植物防疫所、環境省、地方上級

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	出題される問題数の多い数的処理、判断推理、資料解釈、国語、英語を主に勉強しました。勉強した期間は約9か月程だったと思います。試験まで1か月を切ったあたりから時事に目を通しました。世界史や、物理などは分野で一問しか出ないことがほとんどであるため、あまり勉強時間を割きすぎないほうがいいと思います。特に苦手な分野に時間を割くぐらいならばその時間を数的処理などに回したほうがいいと思います。
専門試験・専門記述試験	まず、大学の就活センターを通じて過去問を7年分集めました。林学については大学で学んでいませんでしたが、とりあえずすべての過去問を解き出題の傾向を把握しました。その後、わからない単語を森林・林業実務必携、森林・林業白書などで調べ、問題として出された範囲を重点的に独学で勉強しました。林業機械や害虫などは文章でのイメージが難しかったためYouTubeや林野庁のイラストなどを勉強に用いました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	11:00頃集合、16:00頃解散でした。集合してから事前面談が始まるまでは林野庁職員の方や他の受験者の方々と談笑したり森林管理局の動画を見たりしました。事前面談では机をはさんで面接官二人と15分程度お話をしました。大学ではどのようなことをしてきたかや、勤務地希望や転勤について話しました。距離が近いこともあり、不安な点や疑問などを話しやすかったです。その後、採用面接までの時間はまた他の方々と談笑しました。
採用面接	面接官は三名でした。今日はどのように農林水産省の本庁まで来たのかといったアイスブレイクの質問から始まり、志望動機やどういった業務に携わりたいか、林野庁の志望順位などの質問を受けました。質問の大半は面接カードに沿って行われ、答えにくい質問をされることや、空気がひりついているといったことはなくリラックスして臨むことが出来ました。また、受験者に長く話させるタイプの面接ではなく対話重視であったと感じました。
面接カード(履歴書)の書き方	面接カードはExcelに打ち込む形式でした。面接官に聞いてほしい場所をあえて抽象的に書くなどの工夫をしました。採用面接の質問のほぼすべてが面接カードから聞かれるため、しっかりと練習して書くといいと思います。

林野庁に決めた理由	私は、子どもの頃から、漠然と日本の緑や自然を守る職業に就きたいと考えました。そして『関東の森林から』で小笠原の森林生態系保全の活動を読み、豊かな日本の森林を守り、次の世代へと伝えたいと考えたため林野庁を志望しました。また、「日本の自然を守る」ということは他の省庁でも出来ますが、林野庁は、自ら森林に入り作業をすることも多いと聞き、林野庁に決めました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	公務員試験は孤独です。特に専門科目を林学で受験するとなると同じ境遇の人は周りから少なくなるうえ、他の科目にはある過去問ゼミなどの頼れる参考書もなく試験に受かるのか、自分の勉強法はあっているのかとても不安になります。そんな時は「彼を知り己を知れば百戦危うからず」、「継続は力なり」を心に持ちましょう。私は大学で林学について全く勉強しておらず0からのスタートでした。しかし、しっかりと過去問の分析、情報の収集を行い、自分自身の得手不得手を分析し、毎日コツコツと勉強することで内定をいただくことが出来ました。最後まで合格できると信じて頑張ってください！
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	行政
専攻	刑法(公務員犯罪)	併願先	裁判所事務官

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	理系科目が苦手だったため、数的処理などは1年間かけて何度も繰り返し問題を解きました。文章理解や知識科目はできるだけ短い時間で正しい答えを出せるように、早い時期から時間を図りながら解くようにしていました。
専門試験・専門記述試験	大学で学んでいた憲法・民法・行政法・政治学については、過去問題集を何度も繰り返し解いて、わからない部分だけ体系書を読み返しました。行政学、社会学については予備校のテキストを読んで主要部分を暗記し、過去問題集を解きました。苦手な数学的要素を多く含む経済学については、予備校の授業を受けて、問題に慣れるまで過去問題集やその類似問題を繰り返し解いていました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	採用面接の前に45分から1時間ほど業務説明と逆質問の時間がありました。同時刻の受験生が2名だったので、逆質問の時間には交互に20近くの質問をさせていただきました。事前に説明会に参加したり、林野庁のパンフレットやHP、YouTubeを見たりして、気になる点や聞いてみたいことを20~25個ほど優先順位をつけてノートにまとめておくとうまいと思います。
採用面接	3対1、20分ほどの面接で、質問内容は官庁訪問カードの内容に沿ったものが多かったです。初めての官庁訪問で緊張していましたが、終始和やかな雰囲気だったため、落ち着いて受け答えすることができました。必要以上に自分をよく見せようとしたり、背伸びしたりせずに、森林管理局で働きたいという思いを素直に自分の言葉で伝えるということが一番に心掛けていました。
面接カード(履歴書)の書き方	手書きで丁寧に書きました。また、結論を一文目に述べ、短い文章で完結に思いが伝わるように心掛けました。加えて、自分では理解できているつもりでも初めて読んだ方には伝わらない場合もあるため、提出する前に友人や予備校の先生に確認していただきました。

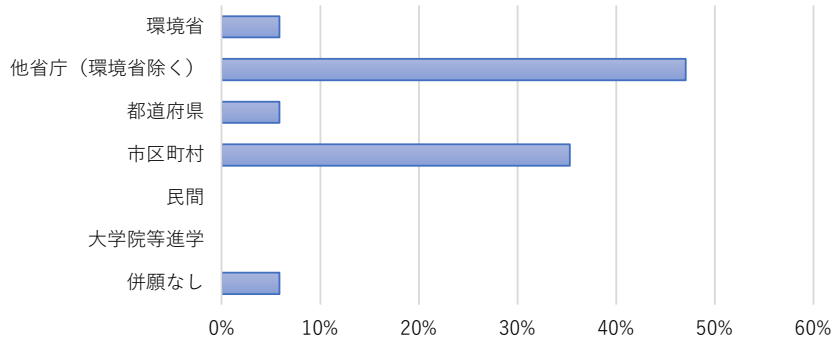
林野庁に決めた理由	親族が山を持っていたことから林業や森林に関わる災害について興味があり、幼いころから山に関する仕事に携わってみたいと思っていました。そして、説明会で林野庁の業務内容について知り、国家公務員でありながら現場に入る仕事と事務の仕事のどちらも経験できるという点に惹かれ、林野庁に入庁したいと考えました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	国家公務員は最終合格までの道のりが長く、筆記試験・人事院面接・官庁訪問と越えなければならないハードルも多いため、途中でくじけそうになるかもしれません。そんな時は、同じく公務員志望の友人を探して情報共有をしたり、説明会等に参加したりすることで、不安を和らげ、モチベーションを高めるようにするとよいと思います。また、行政区分からの志望者はあまり多くないため、大学の機関や周囲の先輩方からの情報収集は難しいと感じたこともありました。そのため、説明会やインターンへの参加、積極的な情報収集が非常に重要です。早い段階から採用情報を調べ、定期的にチェックする習慣をつけておかれることをおすすめします。
-----------	--

(付録) 2024年度一般職(大卒程度)内定者の採用関連データ

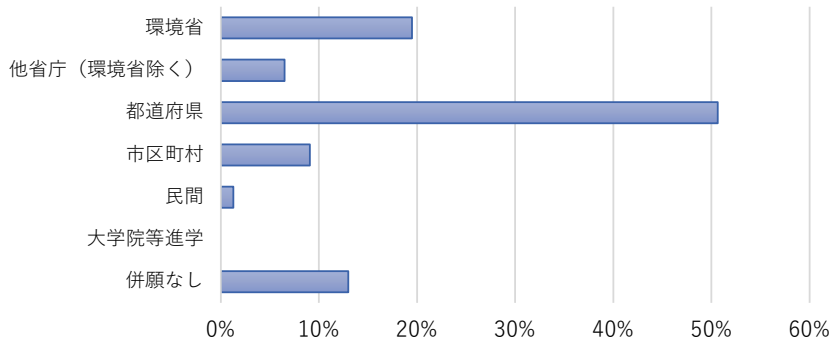
併願先

併願状況(行政区分)



市町村に対しては3割を超える方が併願し、都道府県も含めた地方公共団体という枠組で見ると4割を超える方が併願しています。技術系区分の方に比べ併願をしている方が多く、全体的に公務員志望が多い傾向にあります。

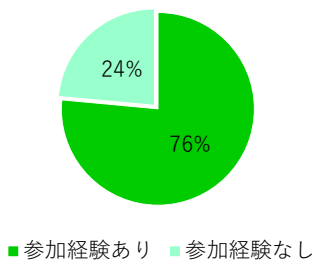
併願状況(技術系区分)



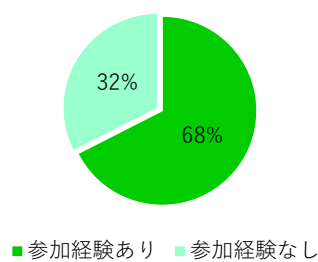
全体の半数超が都道府県庁、2割近くの方が環境省に併願しています。ただ、行政区分の方と比べ、環境省以外の他省庁へ併願している方は多くありません。

業務説明会の参加状況

試験区分: 行政



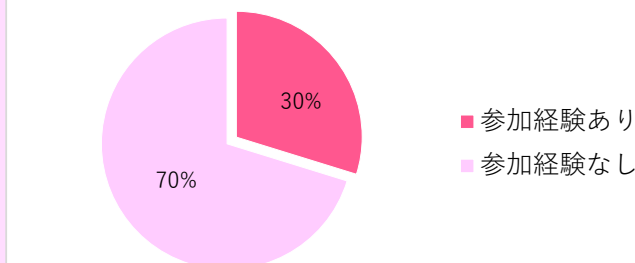
試験区分: 技術系



人事院や大学、林野庁等主催で行われている業務説明会は、参加が必須ではなく、もちろん、選考に影響もありません。しかし、林野庁について職員から直接話を聞ける機会ですので、是非積極的にご参加ください。

インターンシップの参加状況

内定者全体



インターンシップに参加していない内定者が多いですが、実際に職場の業務を体験することができる貴重な機会です。各森林管理局署で実施していますので、是非ご参加ください。みなさんの参加を心よりお待ちしております。



人材育成



森林整備



木材利用



災害対策



山村振興



国際協力



木材生産



環境教育



特用林産物



鳥獣害対策